

諸外国の映像国際放送の現状（欧米）

実施機関 (国名)	BBG (米国)	BBC (子会社) (英国)	DW (独国)	TV5モンド (仏国)	フランス24 (仏国)
サービス名	ボイス・オブ・アメリカ	BBCワールド	DW-TV	TV5モンド	フランス24
設立の経緯・沿革	<ul style="list-style-type: none"> 1941年に、ルーズベルト大統領が設立したFIS (U.S. Foreign Information Service) が前身。 第二次世界大戦におけるナチによるプロパガンダに対抗するため、1942年2月、欧州向けに中波及び長波によるラジオ放送を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 1987年、BBCエンタープライズが「BBC-TVヨーロッパ」開局、欧州向け放送を開始。 1991年、「BBCワールド・サービス・テレビジョン」設立、アジア・中東をターゲットに（同時に24時間化）。 1995年、「BBCワールドワイド」設立。2002年、「BBCワールドワイド」から「BBCワールド」が分離。 	<ul style="list-style-type: none"> 1960年、独立のラジオ局として設立。 1992年、衛星放送で外国向けテレビ放送を行うBerlin DW-TVの放送を開始。 1997年、ドイチェ・ヴェレ法制定。 	<p>1984年、仏語を使用する3か国（フランス、スイス、ベルギー）の政府及び同国公共放送局により設立。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2005年12月、仏国の価値観、世界観を国際社会に発信するため、公共放送フランス・テレビジョンと民放TF1が折半の出資により設立。 2006年11月25日から12月5日の間に、放送開始の予定。
目的・狙い	<p>米国及び世界に関する正確かつ客観的なニュース・情報を海外に放送することによって、自由及び民主主義を促進・維持する。このため、「ボイス・オブ・アメリカ」は米国の文化及び政策の提示（第二次大戦中におけるナチのプロパガンダへの対抗が本来の目的）、「自由ヨーロッパ」は独立系報道の代行といった任務を負う。（放送管理委員会戦略計画2002-2007等）</p>		<p>ドイチェ・ヴェレ法において、目的を規定。</p> <ul style="list-style-type: none"> ドイチェ・ヴェレは、ドイツが、欧州の中で成長した文化国家として、また、自由主義的かつ民主的な法治国家として理解されるように番組を提供する。ドイチェ・ヴェレは、異なる文化と民族の間での理解と交流を促進することを目的として、特に、政治、文化、経済等の重要なテーマについて、ドイツの見方や他の見方が紹介されるフォーラムを、欧州や他の大陸において提供する。ドイチェ・ヴェレは、その際、特にドイツ語普及を推進する。 	<p>仏語による国際的な公共放送チャンネルの設立。</p>	<p>世界各国の人々に世界のニュースに対するフランスの視点を示すとともに、フランスの文化及びアイデンティティを紹介する。（フランス・テレビジョン／TF1総括ノート）</p>

諸外国の映像国際放送の現状（欧米）

実施機関	BBG (米国)	BBC (子会社) (英国)	DW (独国)	TV5モンド (仏国)	フランス24 (仏国)
サービス名	ボイス・オブ・アメリカ	BBCワールド	DW-TV	TV5モンド	フランス24
対象地域	米国を除く全世界。	<ul style="list-style-type: none"> 1987年-ヨーロッパ。 1991年-アジア・中東に拡大。 	ドイツ国内を除く全世界。	全世界。	<ul style="list-style-type: none"> 2007年中、欧州、中東、アフリカ、米国東部（ニューヨーク、ワシントン）。 2008年中、アジア、北米全域、南米まで拡大。
視聴者層	不明。	不明。	不明。	全世界の仏語を話す視聴者（仏国人に限らない。）及び仏語を時々使う、又は仏語を勉強している視聴者。仏語を話さない視聴者に対しては、字幕（10言語）により対応。	経済分野や政治分野において指導的立場にいる人々、メディア関係者、オピニオン・リーダー、そして次に一般大衆の関心を惹くことを目指す。（フランス・テレビジョン／TF1総括ノート）
使用言語	25か国語	英語	同じ言語につき、英語、独語を交互に放送。（地域によって、その合間にスペイン語、アラビア語、パシュトゥー／ダリ語が組み込まれる。）	仏語（10言語については字幕あり）	仏語、英語
チャンネル数	1チャンネル	1チャンネル	1チャンネル	8チャンネル	2チャンネル（仏語100%のチャンネルと、英語75%・仏語25%の2チャンネル）
番組編成	ニュース・情報、文化	ニュース・情報	ニュース・情報、生活・文化、娯楽（スポーツ、音楽）	フィクション、映画、ドキュメンタリー、情報、娯楽、ゲーム、教養シリーズ番組、若者向け番組、スポーツ等を混合編成した総合番組（各放送対象地域ごとに、編成比率は異なる。）	ニュース・情報、生活文化（伝統文化、ポップカルチャー、食文化）
視聴者数 (視聴可能数)	直接受信で2,000万人、系列局経由で1億7,000万人。	2億6千万。	<ul style="list-style-type: none"> 2億世帯。 世界各国の提携放送局（各国の公共放送局）が自局の枠内で放送を行うこともある（この形態の方が歴史的には長い。） 	1億6,500万、視聴可能なホテルの部屋数は300万。	—
インターネット利用	ウェブサイトのみのみ（音声配信あり）。	ウェブサイトのみのみ（映像配信を検討中）。	ビデオ・オン・デマンドによる映像配信。	ビデオ・オン・デマンドによる映像配信。	映像配信を実施予定。

諸外国の映像国際放送の現状（欧米）

実施機関 (国名)	BBG (米国)	BBC (子会社) (英国)	DW (独国)	TV5モンド (仏国)	フランス24 (仏国)	
サービス名	ボイス・オブ・アメリカ	BBCワールド	DW-TV	TV5モンド	フランス24	
組織形態	<ul style="list-style-type: none"> 米国政府の独立機関BBGの下部組織IBBが管轄。 米国内に本部及び4支局、米国外に14支局がある他、90名以上の特約記者。 	<ul style="list-style-type: none"> 「BBCワールド」は、完全な商業ベースのBBCの100%子会社。 BBC本体の58支局と250人の特派員を共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ドイチェ・ヴェレ法において、公法上の公共放送機関と位置づけられ、法的能力を有し自治の権利を有すると規定。 	<ul style="list-style-type: none"> 政府は取締役会（役員会）には参加せず、パートナーたる公共放送局から構成。 担当大臣による年1回の会議で、放送局の発展のための戦略の基本方針及び予算が決定。 予算に仏国外務省の予算が含まれるため、仏国政府の監査役1名が、会計報告の正当性を監査。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には、政府による経営への介入はない。 ペイルートに独自の支局を設置。その他は、既存のネットワーク（フランス・テレビジョン、TF1、TV5モンド等）の海外拠点を活用。 	
職員数	米国内外に1,149名以上。	制作、営業、広報等を含め約150名。そのうち約半数がロンドン、残りが世界10か所のオフィスに配属。	1,635名。	240名（2006年、フリーの記者、特派員を除く）。	仏語とバイリンガルのジャーナリスト約170名。	
財源	総額	1億6,600万ドル（2006年度、ラジオを含む総額）。	4,400万ポンド（約90億円）。約50%は制作費。	313,259千ユーロ（2004年、ラジオを含む総額）。	9,000万ユーロ。	8,000万ユーロ。
	性格（国費等）	国費。	広告料及び放送契約料。	国費及びその他収入（広告料等）。	国費、広告料、地方放送局の納付金、視聴料。	国費及び広告収入を予定。
	国費規模	(1億6,600万ドル)	—	国費が301,859千ユーロ、その他収入が11,428千ユーロ。	不明。	殆どは国費となる見込み。
	広告収入	—	あり（主な広告主は銀行や航空会社）。	あり。	あり。	広告収入も見込む。

諸外国の映像国際放送の現状（欧米以外）

実施機関 (国名)	CCTV (中国)	KBS (韓国)	KIBF (韓国国際放送交流財団) (韓国)	アルジャジーラ (カタール)	ABC (豪州)
サービス名	CCTV-4、9、16	KBSワールド	アリランTV	アルジャジーラ	オーストラリア・ネットワーク
設立の経緯・沿革	<ul style="list-style-type: none"> 中国内外で放送を実施する国家テレビ局。 現在、CCTV-1からCCTV-16まで、16チャンネルを放送。このうち、海外向け放送はCCTV-4、CCTV-9、CCTV-16が担当。 	<ul style="list-style-type: none"> 2003年7月、700万人の在外韓国人向けの韓国語による国際放送を開始。最近、英語字幕付き番組の放送を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 1997年、国内の外国人向け放送を開始。 1999年、アジア大洋州向け放送を開始、その後、順次エリアを拡大。 2004年、アラビア語放送を開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 1996年、放送開始。 	<ul style="list-style-type: none"> 1993年、ABCが放送開始。 1997年、ABCからChannel 7に売却。 2001年、放送打ち切り後、国費投入、ABCが再度開始。
目的・狙い	不明。	<ul style="list-style-type: none"> 国際親善及び理解増進並びに文化・経済交流等。 外国に居住する韓民族を対象とした民族の同質性の増進。 	国家のイメージ及び国家のブランド価値の改善。	不明。	<ul style="list-style-type: none"> アジア・太平洋地域の隣国との結びつきを目的。 地域及び国際的な出来事に対するオーストラリアの声・展望、オーストラリア及びその文化に関する正確なイメージ、情報をアジア・太平洋地域に発出する。
対象地域	<p>【CCTV-4】 全世界の華人（特に在外華人及び香港、マカオ、台湾の住民）向け。</p> <p>【CCTV-9】 英語圏の外国人向け。</p> <p>【CCTV-16(CCTV E&F)】 西語及び仏語圏の外国人向け（現段階では、仏国、米国、キューバ、アルゼンチン、チリ、モーリシャスの6か国に向け放送）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北米全域、欧州、アジアの一部。 2006年には、南米、中近東、アフリカに拡大の予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 1997年-国内向け 1999年-アジア・太平洋向け開始、その後順次拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州、中東、ロシア（西部）、アフリカ（赤道以北）、南アフリカ、北米、アジア（パキスタン、インド、インドネシア）。 	アジア・太平洋。
視聴者層		不明。	不明。	不明。	不明。

諸外国の映像国際放送の現状（欧米以外）

実施機関 (国名)	CCTV (中国)	KBS (韓国)	KIBF (韓国国際放送交流財団) (韓国)	アルジャジーラ (カタール)	ABC (豪州)
サービス名	CCTV-4、9、16	KBSワールド	アリランTV	アルジャジーラ	オーストラリア・ネットワーク
使用言語	中国語、英語、スペイン語及び仏語	韓国語（24時間中10時間は、英語字幕あり）	英語（半分程度は、韓国製コンテンツに英語字幕を付したものの。中国語、スペイン語、アラビア語字幕あり）	アラビア語（英語字幕あり）	英語
チャンネル数	3チャンネル（CCTV-4は中国語、CCTV-9は英語、CCTV-16(CCTV E&F)はスペイン語及び仏語）	1チャンネル	3チャンネル（ワールド1：英語＋中国語字幕、アジア・欧州・大洋州・アフリカ向け；ワールド2：英語＋スペイン語字幕、南北アメリカ向け；アラビック：英語＋アラビア語字幕、中東向け）	1チャンネル（英語によるアルジャジーラ・インターナショナルを創設する計画あり）	1チャンネル
番組編成	【CCTV-4】 ニュース中心。他に、ドキュメンタリー、娯楽、ドラマ等。 【CCTV-9】 ニュース中心。他に、特集、文化、文芸等。 【CCTV-16(CCTV E&F)】 ニュース中心。他に、特集番組。	ニュース・情報、ドラマ、エンタテインメント等。	ニュース・情報、文化、エンタテインメント（3分野に、概ね均等に配分）。	ニュース・情報（24時間のうち15時間）。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ニュース・情報（25%）、ドラマ、ドキュメンタリー、生活、教育（英語講座）、スポーツ、子供番組。 ・ 70%がオーストラリアのコンテンツ。
視聴者数 (視聴可能数)	<ul style="list-style-type: none"> ・ CCTV-4は1,500万世帯以上。 ・ CCTV-9は4,350万世帯。 	2006年には、36か国、視聴可能世帯3,600万（視聴可能人口1億800万人）を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接受信の場合、188か国5,300万。 ・ 現地の衛星放送、CATV経由の配信は、60か国1,383事業者と契約。 	推定で約5,000万人（中東：約4,000万人、欧州：約800万人、北米：20万人、その他：80万人）。	10,200万。98%が外国人、2%が在外邦人。
インターネット利用	ビデオ・オン・デマンドによる映像配信（1996年よりCCTV-4及びCCTV-9）。	ビデオ・オン・デマンドによる映像配信。	ビデオ・オン・デマンドによる映像配信。	ウェブサイトのみの（2003年、同英語版サイトを開設）。	ウェブサイトのみの。

諸外国の映像国際放送の現状（欧米以外）

実施機関 (国名)	CCTV (中国)	KBS (韓国)	K I B F (韓国国際放送交流財団) (韓国)	アルジャジーラ (カタール)	A B C (豪州)	
サービス名	CCTV-4、9、16	KBSワールド	アリランTV	アルジャジーラ	オーストラリア・ネットワーク	
組織形態	<ul style="list-style-type: none"> CCTVは、国营放送（職員は公務員でない。）。 CCTV編集委員会に属する海外番組センターがCCTVの国際放送を運営。 国外に計15か所の支局や駐在所。 	KBS内の一部門としてKBSワールドを実施。		<ul style="list-style-type: none"> 首長家の一族による役員会によって運営。 政府からの財政的独立を確保すべく民営化を検討中。 海外支局は約30か所。その他、通信員を各国に配置。 	<ul style="list-style-type: none"> 政府資金により運営され、明確な実施指針がある。 ニュース、ウェブサイトについては、関係のABC関連部門に委託。 	
職員数	CCTV本社と直属機関を合わせて約10,000人（2005年末）。	（KBS全体の職員は5,223人）	<ul style="list-style-type: none"> 職員は260人。外国育ちの英語がネイティブの若い韓国人を多数雇用。 番組制作部門では多数のフリーランサーを使用。 英語、中国語、アラビア語、西語のネイティブ・スピーカーの雇用を増やすべく努力。 		本部に14名の常勤職員地域に4名の海外通信員、5名の非常勤の代理人。	
財源	総額	（2005年のCCTV全体の収入は、124億元（うち放送事業による収入は94億元、その他関連企業の経営収入は30億元））	4,600万ドル程度。		約1,800万ドル。	
	性格（国費等）	主に広告収入、一部国費も投入。	<ul style="list-style-type: none"> KBSの予算の中で事業を実施。 KBSの収入の4割は受信料、残り6割は広告料等。 	広告収入及び韓国放送委員会からの拠出金。	国費及び広告、映像権販売、機材貸出収入、視聴料。	
	国費規模	不明。	—	—	不明。	約1,800万ドル。
	広告収入	あり。	あり。	必要経費の35%程度は広告収入、残り60%強を韓国放送委員会から拠出。	あり。	—